

第33回

ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



内閣総理大臣賞 図画3部 「収穫作業」

山形市立第九中学校3年 栗野 梨恵さん



平成21年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部

第33回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○内閣総理大臣賞

(図画 3 部) 栗野 梨恵 山形市立第九中学校 3年

○優秀賞

(作文 2 部) 鈴木 彩 鶴岡市立斎小学校 5年
(図画 2 部) 會田 次郎 山形市立南小学校 6年

○学校奨励賞

山形市立第九中学校

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 押野 明純 鶴岡市立朝陽第二小学校 2年
山形県農協中央会会長賞 会田 空翔 山形市立出羽小学校 1年
優秀賞 井上 秀香 真室川町立平枝小学校 1年
山口 まの 鶴岡市立朝日大泉小学校 1年
伊藤南奈美 鶴岡市立朝日小学校 2年
渡部 寿彦 鶴岡市立斎小学校 2年
黒井 紀香 鶴岡市立藤島小学校 3年

●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 鈴木 彩 鶴岡市立斎小学校 5年
山形県農協中央会会長賞 伊藤 浩司 鶴岡市立朝日小学校 6年
優秀賞 瀬川 隼矢 庄内町立余目第四小学校 4年
金野 華奈 鶴岡市立羽黒第三小学校 4年
保科 拓也 鶴岡市立京田小学校 5年
尾形 有生 米沢市立西部小学校 5年
進藤小百合 米沢市立三沢東部小学校 6年

●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 有賀この美 鶴岡市立朝日中学校 2年
山形県農協中央会会長賞 我妻 隆羅 米沢市立第四中学校 2年
優秀賞 小野寺奈々 鶴岡市立朝日中学校 1年
安達 景都 鶴岡市立朝日中学校 1年
小野寺千尋 鶴岡市立朝日中学校 1年
小野寺陽奈 鶴岡市立朝日中学校 2年
佐藤 理奈 山形市立蔵王第一中学校 3年

●学校奨励賞

鶴岡市立斎小学校
鶴岡市立朝日中学校

図画部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 阿部 篤 尾花沢市立明德小学校 1年
山形県農協中央会会長賞 菅野 颯 尾花沢市立明德小学校 3年
優秀賞 島津 諒 高畠町立二井宿小学校 1年
加藤 翔龍 尾花沢市立尾花沢小学校 1年
佐藤 愛竜 尾花沢市立福原中部小学校 2年
藤井美名保 尾花沢市立上柳小学校 3年
佐藤 崇人 鶴岡市立大泉小学校 3年

●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 會田 次郎 山形市立南小学校 6年
山形県農協中央会会長賞 押野 尚道 鶴岡市立朝陽第二小学校 4年
優秀賞 伊藤 陸 天童市立成生小学校 5年
今野杏有子 三川町立押切小学校 5年
藤田 麗 鶴岡市立三瀬小学校 5年
井上 和也 尾花沢市立明德小学校 6年
伊藤 浩司 鶴岡市立朝日小学校 6年

●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 武田可奈子 山形市立金井中学校 1年
山形県農協中央会会長賞 岡部 咲 山形県立酒田聾学校中学部 2年
優秀賞 佐藤 緑 山形市立金井中学校 1年
渡邊 千咲 山形市立金井中学校 2年
上林 穂末 山形市立第九中学校 3年
鈴木 里奈 山形市立第九中学校 3年
加地 明里 米沢市立第四中学校 3年

●学校奨励賞

尾花沢市立明德小学校
山形市立金井中学校



ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会

会長 遠藤芳雄

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心から御礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

三十三回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文三七三点、図画九八九点もの力作を応募いただき、全国コンクール図画部門でコンクール最高位の内閣総理大臣賞を受賞するという素晴らしい成績を修めました。また、県コンクールにおいても、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

このコンクールは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業と、ごはん食と健康の結びつきを見直してもらい、稲作農業を通して人々とのコミュニケーションをはかっていたために実施しております。今回の皆さんの作品は、身近な人とかかわり合いの中で、自分の生活をしっかりとみつめ、家族への思いやり、家族や友達と食べるごはんのおいしさ・うれしさを感じたことが伝わってくるものでした。また、ごはん食や実体験を通して、稲作農業の果たす役割の大きさを知ったことなども、素直に表現されていました。これからも、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦労や努力

を感じ、感謝の気持ちを忘れないでください。

また、家族を大切にする心、自然を大切にする心、生き物すべての命を大切にする心を育み、いつまでも持ち続けてください。

さて、日本が経済大国といわれるようになって久しいですが、豊かな生活の中で、多くの大切なものを失いつつあります。食生活の面からみると食料自給率は、四〇%と、先進国の中では最低の水準にあり、いざという時、食べ物が足りなくなるとい状況が心配されます。また、朝食を食べないなど、特に若い世代を中心とした食習慣の乱れや栄養バランスの偏りが見受けられ、これは生活習慣病の増加や、命を軽視した事件の多発化につながり、大きな社会問題となっております。

こうした中、私たちJAグループは、みんながよい食を本気で考え実践する「みんなのよい食プロジェクト」の運動を展開しており、日本人の主食である米をはじめとした日本型食生活の推進と食料自給率の向上、地産地消の普及、小・中学校の農業体験をはじめとする地域の特徴を活かした食農教育の推進に取り組んでいます。

また、食品の流通を追跡できる仕組み作り（トレーサビリティ）や、農薬などを抑えた環境保全型農業など将来にわたって安全・安心な国産農畜産物を提供するために一層努力をしております。最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。